

# 31年度研究成果発表会 日本建設技術が開催



【佐賀】日本建設技術(株)(原裕代表取締役)が、発注者が言う通りにするのではなく、疑問を持つことが大事。疑問を持つことで、別の発想や想像力が生まれる」と社ドホテル(唐津市)で開催した。会場には、グループ会社の㈱ニッケン、建設環境エンジニアリング(株)、㈱精工コンサルタント、(有)大和地研らと来賓を含め約180人が参加、参加者は日本建設技術30年度のあゆみと実績および成果発表等を真剣に聞いていた。

原社長は「仕事において、発注者が言う通りにするのではなく、疑問を持つことが大事。疑問を持つことで、別の発想や想像力が生まれる」と社員が持つ可能性に期待、その上で「我社のオンラインワン技術(ミラクルソル)を使っての新しい工法や斬新なアイデアが出るのを楽しみにしている」と述べた。

初めに「2018年度のあゆみおよびFWG・透保水性舗装工法」と題し、企画開発戦略本部・総合情報技術事業本部の本部長原裕氏が講演した。講演では、技術フェアへミラクルソル工法を出店、海外企業に当社製品・工法をプレゼン、技術講習会開催など1年間のあゆみを紹介。引き続き、FWG・透保水性舗装工法は、吸水性・保水性を利用したもので、路面の温度上昇を抑制する効果があると説明した。次に、「親杭パネル工法を用いた道路災害復旧工事の施工事例」と題し、建設&コンサルタント事業本部第3グループ長松本哲哉氏が、被災地で大口径ポーリングにより直立壁を構築できる親和パネル工法が採択された災害復旧工事の施工事例を紹介した。

講評で、加藤合同国際特許事務所の加藤久所長は「課題を出す、解決策を考える、アイデアが出てくるなどの取り組みは、社員の技術力向上につながる、その結果として会社の経営力がアップする」とグループの発展に期待をした。

また、日本建設技術(株)、精工コンサルタント、(有)大和地研それぞれの社員に、優秀技術者、功労者、工事評価優秀者、業務委託成績優良評価者などの表彰状を授与するとともに、30年度資格取得者や新入社員の紹介も行われた。